



山陽小野田市 中学生海外派遣事業

パネル展

主催：山陽小野田市 共催：山陽小野田市国際交流協会



オーストラリア モートンベイ 訪問記



あおき あゆみ
青木 歩未

(竜王中学校3年)

ホームステイに挑戦してみてもよかったです。



初日は緊張してバディ以外の兄弟と話すことができるか心配だったけど、みんな気さくに話しかけてくれたり、翻訳機で私に負担がかからないようにしてくれたりして緊張がほぐれて話をすることができました。

オーストラリアは日本と同じ島国だけど、水がとても貴重で、水を飲むよりコーラやミルクを飲んでいることが多く外出先で買った水はジュースと変わらない値段で驚きました。

ホームステイ先では犬が2匹いました。また海に行くと多くの犬が飼い主と海で遊んでいて良いなと思いました。

夜はバディやお姉さん、お母さんとNetflixでドラマを見ましたが、みんな自分の時間を大切にしているようで21時には自分の部屋でゆっくりしている感じがとても良かったです。

緊張したこともあったけど、ホームステイに挑戦してみてもよかったです。





オーストラリア モートンベイ 訪問記



にしおか ひめ
西岡 妃

(竜王中学校2年)

ブリスベン全体の景色が忘れられません。



私が印象に残ったことは、ブリスベンの観光です。大きくてきれいな海や、日本のアートとは全くちがうようなアートが見られる美術館、色々な料理を楽しむことができるイートストリート。そして何より夜になるともっときれいになるブリスベン全体の景色が忘れられません。街を歩いているだけで全部が観光地じゃないのかなと思ってしまうほどでした。どこに行ってもわくわくが止まらなくて帰りたくないと感じました。

来年の派遣生徒には、オーストラリアを楽しんでほしいです。人もすばらしくて、完璧な英語じゃなくても理解しようとしてくれたりして本当にうれしくなります。オーストラリアの観光地も当たり前かもしれないけど、日本と全くちがいで、日本を感じません。

不安なこともたくさんあると思いますが、その不安以上にわくわくや楽しみがあります。良い経験になると思うので、悔いがないようにしてください。





オーストラリア モートンベイ 訪問記



よしむら あおい
吉村 蒼生

(小野田中学校3年)

まだ帰りたくない、それくらい最高な10日間



初めは、どんな家族なのかうまく英語を話せるかどうか不安でした。けれど、ホームステイ先に着いたら、家族のみんなは快く受け入れてくれてとても嬉しかったです。家ではもちろん英語だけで日本語が話せなくて大丈夫かなと思ったけれど、うまくジェスチャーを使って、単語を並べるだけで家族のみんなは聞き取ろうとしてくれて会話が成り立つようになりました。

家では日本と同じく三食出されました。それに、お寿司やピザなどもありました。けれど、お米が出なくて恋しくなり、梅干しなどが食べなくなりました。他には、家族とサッカーを見たりして盛り上がりたり、マリオカートをしたりして楽しかったです。生活リズムは日本よりも良くなって、早く寝て早く起きました。

最初は不安で心配だったけれど、日が経つにつれて10日間で帰るのはさみしい、まだ帰りたくないという気持ちでいっぱいになりました。それくらい最高な10日間でした。





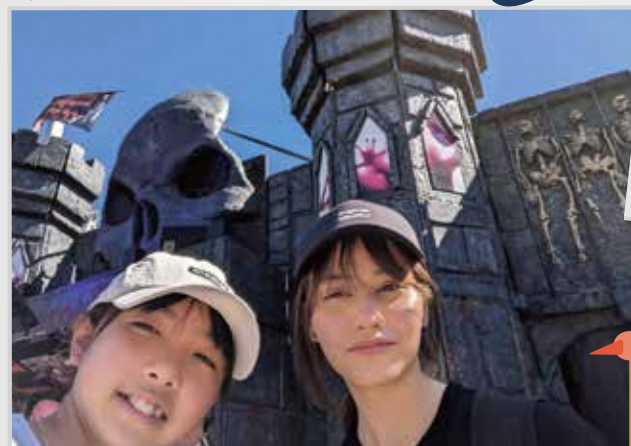
オーストラリア モートンベイ 訪問記



せぐち なな
瀬口 奈々

(高千帆中学校3年)

個性豊かなオーストラリアにとっても惹かれた。



オーストラリアの学校に訪問した際、私が通っている学校との校則の違いを目の当たりにしました。ヘアカラーは基本的にOKで、日本の校則は少し厳しいように感じました。なぜでしょうか。自分なりに考えてみました。

日本の学校ではファッションなどの制限を設け、勉強に集中しやすい環境を作ることによって全体的な学力がアップすると思います。しかし、オーストラリアでは自分の好きなもの、興味があるものはそれが学習の妨げになろうが、自分の責任の中で許されます。個性を伸ばすことをより重視し、自分のやりたいことをとことんできるという印象を持ちました。

一概に決めつけることはできませんが、私は、一人ひとりが自信に満ちていて、個性豊かなオーストラリアにとっても惹かれたので、また行きたいと思いました。





みねしげ とうや
峯重 斗哉

(高千帆中学校3年)



僕は、オーストラリアの学校を実際に体験してみて、オーストラリアの学校の過ごしやすさと異文化交流の大切さを学びました。

オーストラリアの生徒はみんなアットホームで、生徒や先生の距離も近く、明るい雰囲気でした。初日は、全然知らない人に急に話しかけられて、日本ではなかなかそんなことはないので驚きました。話してみると、思いやりもあったしすごく楽しかったです。日本でももっと人同士の関わりを活発に行い、学校生活をより華やかなものにしてほしいなと思いました。

また、オーストラリアの生徒は自分が想像していたよりも日本に興味を持ってました。言葉がはっきり通じなくても、文化は人と人をつなぐコミュニケーションツールになります。これから海外についてもっと興味を持ち、国際的なつながりを大切にしていこうと思います。





オーストラリア モートンベイ 訪問記



ふじた るな
藤田 琉愛

(厚狭中学校2年)

この経験は一生ものの思い出になります。



私が海外派遣事業を通じて感じたことは、慣れない環境でも怖がらずにとにかく挑戦することが大切だということです。私にとって初めての海外で、日本と違う生活や言葉、学校どれも不安が大きかったけれど、関わる皆さんが優しく親切にしてくれてすぐに不安はなくなりました。本当に楽しくて、毎日充実して、挑戦できた12日間でした。

特に挑戦したことは、たくさんの人と話すことです。積極的に自分から意識して話しかけました。一生懸命に伝えたと、会話の相手も笑顔で褒めてくれました。本当に嬉しくて、頑張ってた良かったと心に残っています。ネイティブ英語に圧倒されて、話している内容は理解できるのに言葉が出ず翻訳に頼ってしまうことが多かった点は残念だったし、もっと英語を勉強して自分の言葉で話せるようになりたいです。海外派遣事業に興味を持った方は、是非来年度挑戦してみてください。この経験は一生ものの思い出になります。





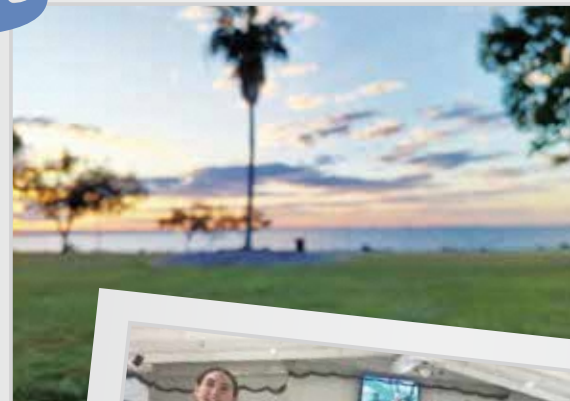
オーストラリア モートンベイ 訪問記



しのはら のぞみ
篠原 希美

(厚陽中学校2年)

自分の気持ちを相手に伝えることが大切だと思いました。



私のホームステイ先は、5人家族でした。よく一緒にアナログゲームをしたり、ビーチに連れて行ってもらったりしました。オーストラリアの海はとても綺麗なので、皆さんも是非見てみてください。

私がホームステイ中によく使ったのは、「Yes please.」と「No thank you.」です。「Yes」や「No」だけでもいいそうですが、丁寧な言い方なのでそう言ったほうがいいと教えてもらいました。他にも「Thank you」や「Sorry」をよく使いました。簡単な英語でもいいので、自分の気持ちを相手に伝えることが大切だと思いました。また、翻訳機は文章をそのまま打ち込むのではなく、わからない単語を調べることに使うほうがいいなと思いました。自分で考えて相手に伝える努力をするのも大切だと気づきました。

オーストラリアに行き、ホームステイをすることはなかなかできない貴重な体験なので大切に、今後に生かしていきたいです。





オーストラリア モートンベイ 訪問記



まえだ あやか
前田 彩花

(埴生中学校3年)

仲良くなれた子とInstagramを交換したりもしました。



オーストラリアの学校と日本の学校はかなり違うと思います。オーストラリアの学校では、ピアス、スマホ、お化粧品、お菓子などを持ってきていたりします。下校時間も日本では16時30分なのに対してオーストラリアでは14時30分に下校します。そして、日本でいう部活はなく各クラブチームに所属していました。学校の大きさ・広さもとても日本では考えられないくらいのです。学校には売店があります。そこも日本とは違い、驚きました。

日本語クラスでは、習字をしたり、折り紙をしたり、ボールで遊んだりしました。自己紹介をするときのスライドも自分で作っていて本当にすごいと思いました。仲良くなれた子とInstagramを交換したりもしました。すると翌日に名前を呼んで手を振ってくれました。みんなの優しさに触れることができ、オーストラリアでの学校生活を充実したものにできたと思っています。



市中学生海外派遣事業



オーストラリア モートンベイ 訪問記



なわた あゆみ
縄田 亜弓

高千帆小学校教諭



たなべ みどり
田邊 碧

山陽小野田市職員

グローバルな視野をもった人へと成長してほしい



派遣生徒は、「最初は会話に困っていたけれど、数日間英語に触れていたおかげで、耳が英語に慣れてきて、大体の会話が聞き取れるようになった。」「オーストラリアの人たちは皆フレンドリーで、声をかけてくれるので、すぐに打ち解けることができた。」「英語でどのように伝えたら良いか分からなくても、他の言い方に変換するなどして、相手に伝える努力をすることができた。」「ジェスチャーの大切さが分かった。」などと、この派遣事業で身をもって体感した成果を口々に話していました。生徒たちは、相手に「思いを伝えたい」「話したい」という思いがコミュニケーションをとる上で一番大切だと実感していました。今回の経験を通して、オーストラリアの良さや日本の良さ、そして、コミュニケーションをとる上で必要な相手意識の大切さを学ぶことができました。この経験をこれからの生活や学びに生かし、グローバルな視野をもった人へと成長してほしいと思います。

高千帆小学校教諭 縄田 亜弓



帰国後、派遣生徒の保護者の方から「子どもがオーストラリア戻りたいと言って逆にホームシックになっている」「帰国してから毎日のようにバディと連絡を取り合っているようだ」と嬉しい声が聞かれました。派遣生徒の皆さんにはこの貴重な経験と出会いを一過性のものではなく、ずっと紡いでいってほしいと願っています。この事業は何十年経っても色褪せない大切な思い出になると思います。私が本事業の担当になって、過去の派遣生徒、その保護者の方からいろいろな話をうかがう機会がありました。どの方からの言葉も本事業がその方の今後の人生に少なからず影響を与えているのだと思いました。今後も事業の継続的な実施に向け、担当として業務に当たっていきたいと考えています。

最後に、この事業を支えてくださった全ての皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。いただいたご厚意を決して忘れることなくこれからもずっと心に留めておきます。本当にありがとうございました。山陽小野田市職員 田邊 碧

